

駆け抜けた最後の 10メートル

別府で「世界一短い徒競争」

【別府】10歳の「超・短距離で速さを競う最後の「世界一短い徒競争選手権大会」が10日、別府市の南立石小グラウンドであった。新型コロナウイルス感染拡大の影響で3年ぶりの開催。2歳から90歳までの164人が、さまざまな思いやペースで10メートルを駆け抜けた。



①小さな子どもたちも参加(仲懸命に駆け抜ける子どもたち(力走する一般男性)別府市の南立石)



大会は南立石校区の総合型地域スポーツクラブ「南立石ジョイ倶楽部」(佐藤哲朗会長)が世代間

交流を目的に2013年に始めた。小さな子どもや高齢者、走るのが苦手な人も楽しめる大会として、全国

的にも注目を集めた。これまで計8回開催し、地域内外から延べ1500人以上が参加した。当初から10年

を節目にしようと計画、今年大会を幕を閉じた。開会式で佐藤会長(75)が「メディアやSNSを通し

2歳から90歳まで 世代間交流の大会に幕

て全国や世界に発信され、まさに「世界一の大会」と自負しています。これからも高齢者の居場所づくりや子どもたちの健全な人間形成に取り組んでいきたい」とあいさつ。3世代5人で参加した吉田勝さん(28)は南立石町が家族全員で選手宣誓。参加者全員で記念撮影をした。

幼稚園以下から後期高齢者(75歳以上)の部まで13クラスの予選があり、各クラス上位5人が決勝でタイムを競った。一瞬の勝負に集中力を切らさず、全力で取り組む参加者の姿に、会場からは拍手が送られた。

1回目から毎年参加し、好記録をマークし続けた糸永一人さん(74)は「東立石は「久しぶりで緊張感を持って走ることができた。毎年、優勝を目指して練習をしていたので寂しい気持ちもある」。2回目の参加となった矢ヶ部美波さん(10)は「南小4年」は「走るの好き。1位でゴールできてうれしかった」と笑顔を見せた。(佐藤弘子)

